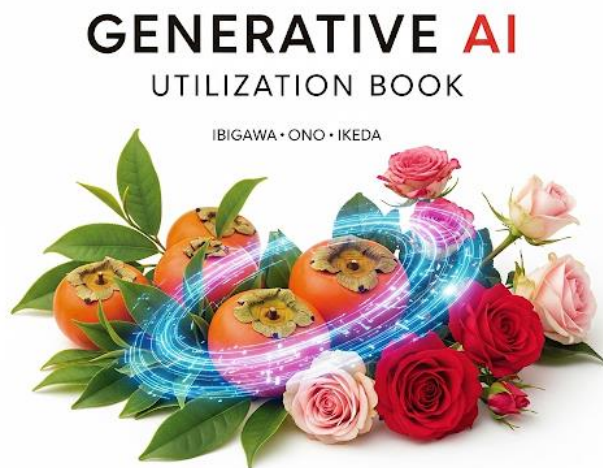


揖斐郡 生成AI活用ブック



Copilet が生成した画像



Gemini が生成した画

揖斐川町、大野町、池田町の特産物を取り入れた生成 AI 活用ブックの表紙を日本語で作ってのプロンプトで生成 AI が作成した表紙画像



揖斐郡教育研修センター

令和7年8月

揖斐郡 生成 AI 活用ブック

■□■目次■□■

- I はじめに
- II 令和7年度夏季研修（生成 AI 活用研修）
岐阜聖徳学園大学 教育学部教授 DX 推進センター長 芳賀 高洋先生
「生成 AI の課題と教育利用について」の講演の概要
- III 初等中等教育段階における生成 AI 利活用に関するガイドライン
＜文部科学省 初等中等教育局 令和6年12月26日＞
- IV 学校における生成 AI の利活用について＜令和7年3月発行 岐阜県教育委員会 義務教育課＞
- V 「各教科での生成 AI の活用の具体例について（揖斐郡教育研修センター提案）

I はじめに 「揖斐郡生成 AI 活用ブックについて」

揖斐郡教育研修センターでは、揖斐郡における ICT 活用の推進の5本柱として

- ①グーグルフォームの活用
- ②Teams によるオンライン会議・研修
- ③生成 AI の教育への有効な活用
- ④揖斐郡教育会掲示板の効率的な活用
- ⑤郡センターホームページの効果的な活用

を掲げ、令和4年度より郡センターホームページの効果的な活用、Teams によるオンライン会議・研修、令和5年度にはグーグルフォームの活用、令和6年度には揖斐郡教育会掲示板の設置と活用に取り組んできました。

その上に立って、令和7年度には「生成 AI の教育への有効な活用」が揖斐郡で行われることを願い、夏季研修として生成 AI 活用研修を位置づけ、岐阜聖徳学園大学 教育学部教授 DX 推進センター長 芳賀高洋先生に「生成 AI の課題と教育利用について」の演題で講演をしていただき、揖斐郡の教職員が学び合いました。研修から学んだ内容については郡センターだより「生成 AI 研修のまとめ」として郡内の各小中学校、各町の教育委員会に送付しております。

今回送付する「揖斐郡生成 AI 活用ブック」は夏季研修での芳賀先生の講演の概要と、アンケートの中で要望が多かった「各教科での生成 AI の活用の具体例について知りたい」という要望についての郡センターとしての提案をまとめたものです。

子どもたちが生きていくソサイエティ 5. 0 の社会では「持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会」が求められ、生成 AI の合目的で、有効な活用が求められます。

本ガイドブックをもとに、各校で生成 AI の課題を踏まえた上での有効な実践が授業や校務等の場でなされることを願っております。また郡教育実践論文等に生成 AI を有効に活用した実践が反映され、郡教育研修総会の場合等で郡内で共有されるとよいと思います。

趣旨をご理解いただき、ご活用のほどよろしくご願ひ致します。

揖斐郡教育研修センター

II 令和7年度夏季研修（生成 AI 活用研修）

岐阜聖徳学園大学 教育学部教授 DX推進センター長 芳賀 高洋先生
 「生成 AI の課題と教育利用について」の講演の概要
 ※詳細は各校に送付してある講演プレゼン PDF 資料を参照してください

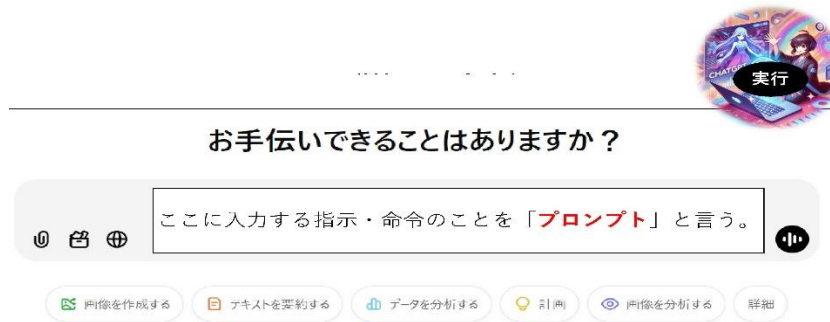
- 『人工知能とは何か』 日本人工知能学会
 人間と同じ(知的作業)をする機械を工学的に実現する技術
- 意識もなく感情もない弱い人工知能は「嘘」はつけない。あたかも嘘をついているように思えるが、単純に間違っているだけである。
- 人工知能 最大の特徴
 人工知能は(学習)し成長し、変容する技術である
 一般的なテクノロジーは、学習するのは人間のほうだからこそ人間に対する「教育」が必要
- 人工知能は、学習し、成長する技術
 問題点が改善されたり、新たな問題が発生する
- 生成 AI とは？
 文字や音声による人からの問いかけ、会話、命令・指示(プロンプト)、画像、映像、音声 URL 等の入力に即時に応答し、会話、文章、画像、音声、映像などのメディアを生成する特化型の人工知能。あたかも人間のように振る舞うが意識も感情もなく、弱い人工知能である。
- 様々な生成 AI

ChatGPT、Copilot、Gemini、Suno などなど



- 米 OpenAI 社のライセンス(利用規約)
 OpenAI 社は(13 才)未満は利用禁止としている。(13 才)以上(18 才)未満は保護者の同意が必要。
 日本では「直接利用」は中学校2年生以上
 ChatGPT に限らず、世界的には生成 AI の直接利用の下限は13歳とすることが一般的

- プロンプト(指示・命令)を与える



- 偏見や差別の再生産
 (バイアス)問題 (偏見)が強化される
 ≡ 少数意見、マイノリティの疎外の懸念
- 透明性と説明責任の欠如 (ブラックボックス)問題

「再現性」が低く、生成が不安定である。また、「この生成物は、〇〇というプロンプトを入力して生成された」という説明も、その人の自己申告であるため、本当かどうかわからない(説明責任の欠如)。このことは、生成物からプロンプトを予測するリバースエンジニアリングが困難であることを示している。

● (ハルシネーション)問題

作り話、捏造。あたかも、本当のこのように間違っていることを返答する。ただし、生成AIは感情(意識)がない弱いAIであるため嘘をついているわけではなく、単純に間違っている。

● 私たち一般利用者ができること(すべきこと)

- 出所を明示(記録)する
- 批判的検討：生成物を公表する前に偏見などがいないか、マイノリティを排除していないか等を検討する。
- 説明責任と応答責任：生成物を公表し、偏見などを指摘されたときに正当化できるか、十分に説明ができるかを検討する。
- 未成年者は大人のチェックを受けてから公表する

● (ポチヨムキン理解)

ある理論の解説や説明は流暢であるが、理論の応用がきかない。
理解しているフリをする。

● 現状では、倫理的、法的、社会的な様々な問題があります

リスク・論点クラスター	Ethical (倫理)	Legal (法)	Social (社会)
1. バイアス & 差別	トレーニングデータの偏り/マイノリティ不在/フィードバック偏見強化/ジェンダーバイアス		セグメンテーション差別→雇用・教育格差
2. プライバシー & データ	無断収集/感情・健康データ過剰取得/位置情報乱用	GDPR 同意取得不足/再識別リスク→データ最小化義務	プライバシー不安→不信感・不眠
3. 透明性 & 説明責任	ブラックボックス化/XAI 不足/監査ログ不整備	責任者特定困難/保険補償の範囲不明	説明欠如→社会的信頼低下
4. 偽情報・ディープフェイク	フェイクニュース生成/音声・映像捏造	名誉毀損・選挙法・輸出規制に抵触	世論操作/恐怖醸成/公共政策への疑念
5. 自律性 & 意思決定	過度自動化/最終判断権剥奪/キルスイッチ不足	AI 自律性による責任回避/安全規格未整備	専門職置換・ワークフロー崩壊→雇用影響
6. 著作権・知的財産	(主に価値観衝突)	無許可学習/派生物帰属不明/フェアユース境界	創作者収入喪失→職業構造変化
7. 責任・賠償		・損害時の責任分散/オープンソースの帰責/保険モデル不足	被害者救済遅延→信頼低下
8. 規制・ガバナンス	設計者バイアス隠蔽(内部統制の倫理)	国ごと規制ギャップ/AI 特化法未整備/監督機関権限不足	ルール不統一→公平性低下・国際協調課題
9. 輸出・デュアルユース	(倫理的には兵器転用リスク)	軍事転用防止手続き/ライセンス費用/制裁リスク	国際安全保障・貿易摩擦
10. 雇用・労働市場	(倫理的自動化是非)		ルーティン業務自動化/新スキル負担/非正規雇用拡大
11. デジタルデバイド	年齢・障がい者配慮不足		地域インフラ格差/経済的アクセス障壁/Iリテラシー差
12. 社会的信頼	意図せざるコンテンツ排除→表現萎縮		データ漏洩スキャンダル/AI 不信増大
13. 教育現場での不正利用	ハルシネーション回答→学習評価を誤導	学習記録改ざん→個人情報法	宿題・試験代行/教師リソース混乱
14. 精神的健康	(過度依存の倫理)		AI チャット依存/自己肯定感低下/デジタル中毒

- **ジェイルブレイク問題**

生成AIの倫理的な応答(自主規制や制限)は、以下のような「ジェイルブレイク(脱獄)」という操作によってかなりの確率で「回避」(解除)できると言われている。

また、意図的ではなく「偶発的なジェイルブレイク」も指摘されている。

- ・ プレテンディング：生成AIに別の役割を演じさせて制限を回避する
- ・ 注意シフト：生成AIの注意をそらして本来制限されている内容を引き出す
- ・ 特権エスカレーション：生成AIのシステムの高度な権限を得ようとする

- 偽情報、フェイクニュース

- (**ディープフェイク**)問題

本当か偽情報か判別が困難 詐欺などの巧妙化 情報操作の巧妙化

- 生成物が著作権侵害をしているかの確認

<一般利用者ができること(すべきこと)>

- ・ 私的使用・・・目的以外で、他者の著作物の作品名などをプロンプトに極力入れないようにする。
(私的使用：同居する家族間などごく近い関係の人だけの利用)
- ・ 同じく、私的使用目的以外で他者の著作物と似ている生成物は使用しない、もしくは破棄する。

- 自分で生成したものを私的使用を越えて公表(利用)する場合

- ・ 他者の著作物に似ていることがわかっている場合は、似ている著作物の著作者(著作権者)に許諾を取ってからSNSなどで公表する。許諾を取らないならばいかなる方法でも公表はしない。
- ・ 有名ではない他者の著作物と似ている可能性もあるため、公表する場合は出所を明示する。

- 他者が公表している生成AIの生成物を利用する場合

- ・ 私的使用の場合や学校の授業での利用の場合は、許諾なく利用できる
- ・ 利用ライセンスの表示があれば、それに従って利用する。
- ・ ライセンスの表示がない、かつ、私的使用以外の利用の場合(たとえば、自分のSNSのタイムラインに投稿する)、公表している人の氏名やウェブサイトのURL、連絡先がわかる場合、利用する前に、許諾を取る。許諾が得られない場合(連絡が得られない)は利用しない。
- ・ いずれにせよ利用する場合は出所を明示する。

- **個人情報/プライバシーに関わる課題**

- ・ 生成AIはウェブで公開されている情報は個人情報であっても回答する。
- ・ OpenAI社が13歳未満の利用禁止をしているのは、子どもの個人情報の保護のため
- ・ 個人情報(個人データ)が本人に無断で収集され、機械学習される(た)可能性
- ・ プロンプトへの個人データの入力によってその個人データが生成に利用される(た)可能性
- ・ ジェイルブレイクなどによって個人データを含む生成物が生成される(た)可能性
<一般利用者ができること(すべきこと)>
- ・ 原則としてプロンプトに自己または他人の個人情報は入力しない。
- ・ 個人情報を入力して何かを生成したい場合、生成AIによっては「プロンプトに入力した情報を学習しない」というオプトアウト設定があるため、オプトアウトする。

- 現状の法律は、生成AIが想定されておらず、また判例等も極めて少ない。また、生成AIが個人データをどのように扱うかもよくわからない。いずれにせよ、法改正が必要である。

- 格差問題

- ・ 生成AIを手軽に使える人とそうでない人では、その恩恵に大きな差がある。
- ・ 日本であれば幼稚園児でも使えるが、開発途上国などではインフラが整備されておらず大人であっても生成AIを利用できない。
- ・ 人類の共有技術として、誰もが生成AIにアクセスできなければならない。

- 自然環境への影響

- ・ ChatGPT-3.5では、従来の Google 検索(0.3 ワット時)に比べて約10倍の電力(ChatGPT のクエリで 2.9ワット時)が必要とされると推定されている。

生成 AI の流行で、データセンターの消費電力量が過去最高に

- 人の心(道徳、倫理)や倫理教育に期待するにも限界がある。新しい科学技術の利活用の「新しい指針」や「新しい法律(規制)」が求められる。
- 文部科学省の「初等中等教育段階における生成 AI に関するガイドライン」(R6.12)を参照する。

Ⅲ 初等中等教育段階における生成 AI 利活用に関するガイドライン（概要）

＜文部科学省 初等中等教育局 令和6年12月26日＞

「初等中等教育段階における生成 AI 利活用に関するガイドライン」は学校現場における生成 AI の適切な利活用を実現するための参考資料となるよう、生成 AI の概要や基本的な考え方、場面や主体に応じて押さえておくべきポイントをまとめたもの。

① <生成 AI の概要>

- 生成 AI とは、文章、画像、プログラム等を生成できる AI モデルにもとづく AI の総称
- 汎用的なサービスだけでなく、様々な提供形態・提供主体が出現し、教育分野にも導入
- 様々なリスクの存在が指摘される一方で、技術的な対策も進展

② <基本的な考え方>

■人間中心の利活用

- 生成 AI を有用な道具になり得るものと捉え、出力を参考の一つとして、リスクや懸念を踏まえた上で、最後は人間が判断し、責任を持つことが重要
- 学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用
- 学びの専門職としての教師の役割が一層重要

■情報活用能力の育成強化

- 生成 AI の仕組みの理解、学びに生かしていく視点、近い将来生成 AI を使いこなすための力を、各教科等の中において意識的に育てていく姿勢は重要
- 生成 AI が社会生活に組み込まれていくことを念頭に、情報モラルを含む情報活用能力の育成を一層充実させていくことが必要

③ <教職員が校務で利活用する場面>

- 校務において利活用することで、校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される
- 教職員自身が新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要
- 生成 AI の仕組みや特徴を理解した上で、生成された内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用することは有用

④ <児童生徒が学習活動で利活用する場面>

- 発達の段階や情報活用能力の育成状況に留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべき。その際、学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味することが必要
- 「生成 AI 自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」を組み合わせたリ往還したりしながら、生成 AI の仕組みへの理解や学びに生かす力を高める

⑤ <教育委員会等が押さえておくべきポイント>

- 教育委員会が主導して制度設計や方向性を示すことが重要
- 各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じることが必要であり、一律に禁止・義務付けるなどの硬直的な運用は望ましくない
- 先行事例や教材・ノウハウの周知・共有、研修の実施により、生成 AI の適切な利活用を推進する環境を整備することが重要

⑥ <共通して押さえておくべきポイント>

- 安全性を考慮した適正利用
- 情報セキュリティの確保
- 個人情報・プライバシー、著作権の保護
- 公平性の確保
- 透明性の確保、関係者への説明責任

■生成 AI とは



<教職員が校務で利活用する際のチェック項目>

- 教育委員会の方針(情報セキュリティに関するルール・指示等も含む)に基づき利用しているか
- 業務端末又は教育情報セキュリティ管理者の許可を得た端末を利用しているか
- 生成 AI サービスの提供者が定める最新の利用規約を確認・遵守しているか
- ハルシネーションやバイアス等の生成 AI の特徴を理解した上で、出力結果の適切性を判断できる範囲内で利活用し、出力された内容を採用するかどうかを自身で判断しているか
- プロンプトに重要性の高い情報である成績情報等を入力していないか
- プロンプトに個人情報を入力していないか(p.15、16)
- 著作権の侵害につながるような使い方をしていないか

<児童生徒が学習場面で利活用する際のチェック項目>

- 育活動の目的を達成する観点で効果的であることを確認しているか
- 児童生徒の発達の段階や情報活用能力の育成状況に十分留意しているか
- 生成 AI の性質やメリット・デメリット、情報の真偽を確かめる、自己の判断や考えが重要であることを十分に認識できるような使い方等に関する学習を実施しているか
- プロンプトに氏名や写真等の個人情報を入力しないよう十分な指導を行っているか
- 著作権の侵害につながるような使い方をしないよう十分に指導しているか
- 生成 AI サービスの提供者が定める最新の利用規約を確認・遵守しているか(年齢制限や保護者の同意の必要性、生成物のライセンスの所在など)
- 生成 AI による生成物をそのまま自己の成果物として使用することは自分のためにならないこと、使用方法によっては不適切又は不正な行為になることを十分に指導しているか。
- 学習課題に生成 AI の回答を引用している場合、出典・引用を記載することを理解させているか
- 保護者の経済的負担に十分に配慮して生成 AI ツールを選択しているか
- 児童生徒が学校外で生成 AI を利活用する可能性も踏まえ、生成 AI の不適切な利活用が行われないよう、保護者に対し周知し、理解を得ているか

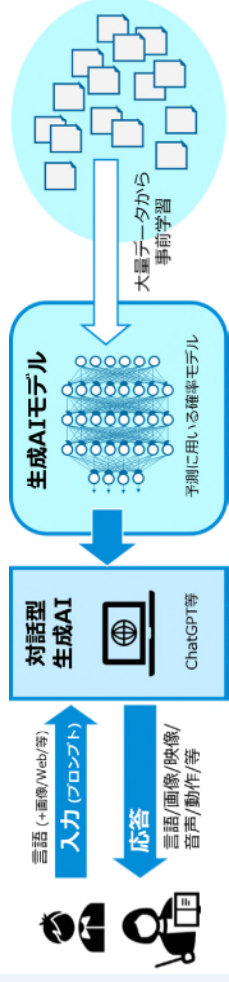
初等中等教育段階における生成AIの活用に関するガイドライン(Ver. 2.0)【概要】

教職員や教育委員会等の学校教育関係者を主たる読み手として、学校現場における生の適切な利活用を実現するための参考資料となるよう、生の概要や基本的な考え方や、場面や主体に応じて押さえておくべきポイントをまとめたもの

1. 生成AIについて

- は急速に普及 文章だけでなく動画画像や音 異なる種類の情報をまとめて扱えるように 人間の反応と遜色ないスピードで応答ができるようになつて
- 学校現場においても 汎用的なサービスが利用可能なだけでなく 標準仕様のブラウザや学習支援ソフトウェア等にも組み込まれ 利活用の幅が広がつた
- 誤った出力 ハルシネーションを完全に防ぐことは難しいとされているほか 出力過程の信 透明性への懸 大量のデータに潜む偏見や差別等のバイアスをそのまま再生成すること 様々なリスクも指摘されてい これらのリスクを軽減する技術等も進展

生成AIの仕組み






研究開発戦略センター


を基に文部科学省において

2. 基本的な考え方

① 学校現場における人間中心の活用

- **人間中心の原則**  人を人間の能力 可能性を広げてくれる有用な道具になり得るものと捉えるべきで 出力はあくまで 参考の一つであることを認識する リスクや懸念を踏まえつつ 後は人間が判 責任を持つこと
- **児童生徒の学びと生成AI**  学習指導要領に示す資質 能力の育成に寄与する 教育活動の目的を達成する観点から効果的かを吟味した上で利活用するべきであり 利活用することが目的であってはならない
- **教師の役割と生成AI**  指導計画や学習環境の設定 丁寧な見取り 学びの専門職としての教師の 要なものになる
- の仕組みや特徴を理解する 教師には一 役割を身に付けることが求められる

② 生成AIの存在を踏まえた情報活用能力の育成強化

- **学習の基盤となる 資質・能力としての 情報活用能力**  学習指導要領 情報活用能力を 学習の基盤となる資質 能力として位 情報を主体的活用すること 情報技術を学習や日常生活活用できるようにすることの重要性を強調し
- 各学校において 各教科等横断的な視点からの 課程の編成を 各教科等の学習の過程における指導の中で情報活用能力を育成することが期待さ
- の仕組みの理 学びに生かしていく視点 近い将来生成 AIを使いこなすた 各教科等の中において意識的に育てていく姿勢は重要
- が社会生活に組み込まれていくことを念頭 発達の段階等を踏まえつつ 情報モラルを含む情報活用能力の育成を充実させていくことが必

初等中等教育段階における生成AIの利用に関するガイドライン(Ver. 2.0)【概要】

3. 学校現場において押さえておくべきポイント



学校現場で活用する場面

- 校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される
- 新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要
- 内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に活用することは有用

教職員の 校務



具体的な利活用例

- 児童生徒の指導にかかわる業務への支援
(授業準備、部活動、生徒指導等)
ex. 授業で取り扱う教材や確認テスト問題のたたき台を作成する
- 学校の運営にかかわる業務への支援
(教務管理、学校からの情報発信、校内研修等)
ex. 各種お便り・通知文・案内文のたたき台を作成する
- 外部対応への支援
ex. 保護者会・授業参観・保護者面談の日程調整に活用する

- 発達の段階や情報活用能力の育成状況に留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべき
- その際、学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味することが必要
- 「生成AI自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」を組み合わせて往還したりしながら、生成AIの仕組みへの理解や学びに生かす力を高める

児童生徒の 学習活動



教育委員会等が押さえておくべきポイント

- 教育委員会が主導して制度設計や利活用の方向性を示すことが重要
- 各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じることが必要であり、一律に禁止・義務付けるなどの硬直的な運用は望ましくない
- 先行事例や教材・ノウハウの周知・共有、効果的な活用を促進する研修の実施により、生成AIの適切な利活用を推進する環境を整備することが必要

利活用の際のポイント



- AIサービスの最新の利用規約を確認・遵守する
 - 原則、重要性の高い成績情報等を入力しない
 - 個人情報保護法等を遵守すること、著作権侵害につながるような使い方をしないこと
 - バイアス等の生成AIの特徴を理解した上で、出力された内容を採用するかどうかは必ず教職員が判断する
 - 管理職は適切な利活用がなされているかを確認する
 - 年齢制限等の最新の利用規約を確認・遵守し、教師の適切な指導監督の下で利活用させることが必要
 - 教育情報セキュリティポリシーや教育情報セキュリティ管理者の指示等を遵守することが必要
 - 氏名や写真等の個人情報を入力させないこと、著作権侵害につながるような使い方をさせないこと
 - 出力に偏りがないかなど、教育目的に照らして適切かを教師が随時判断することが必要
 - 保護者に対し、利用目的や態様等の情報提供が重要
- 各学校が適切に生成AIの利活用を行えるよう各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じることが必要
 - 教育現場の実態に即した教育情報セキュリティポリシーを教育委員会が策定、必要に応じて見直すことが重要
 - 個人情報の取扱いに関して必要かつ適切な措置が取られているか確認すること。著作権の侵害リスクを低減するため、適切な予防措置を講じているモデルやサービスを選択することも考えられる
 - バイアス等のリスクや懸念を踏まえた教職員による最終的な判断が不可欠であることなど、適切な情報提供や研修等のサポートを行うことが重要
 - 生成AIサービスを導入する際は、保護者の経済的な負担等に十分に配慮しつつ、適切な利活用を実現するための研修を実施するなど、丁寧な情報提供を行うことが必要



適切な利活用のために考慮すべきポイント

初等中等教育段階における生成AIの活用に関するガイドライン(Ver. 2.0)【概要】

参考資料編

利活用する際のチェック項目

- 教育委員会の 情報セキュリティに関するルール 指示等も含む
基つき利用し
- 業務端末又は教育情報セキュリティ管理者の許可を得た端末を利用し
- サービスの提供者が定める最新の利用規約 遵守しているか
- ハルシネーションやバイアス等 の特徴を理解 出力結果の
適切性を判断できる範囲内で利用し 出力された内容を採用する
を自身で判断しているか

- プロンプトに重要性の高い成績情報等の情報を入力して
重要性の高い情報を扱う前提のセキュリティ対策が講じられている場合は除く
ただし、重要性の高い情報のうち個人情報に該当する情報については、以下「ブ
」に個人情報を入力していないか」についても留意する必要がある。
- プロンプトに個人情報を入力していないか
教職員がプロンプトに入力した個人情報や、生成
結果の出力以外の目的で取り扱わないことを確認している場
合
- 著作権の侵害につながるような使い方をし
ていないか

おいて応答

教職員の校務

- 教育活動の目的を達成する観点で効果的であることを確認しているか
- 児童生徒の発達の段階や情報活用能力の育成状況に十分留意してい
るか
- の性質やメリツ 情報の真偽を 自己の判断
や考えが重要であることを十分に認識できるような使い方等に関する学
習指導を実施している
- プロンプトに氏名や写真等の個人情報を入力しないよう十分な指導を行
っているか
- 著作権の侵害につながるような使い方をしないよう十分に指導しているか

児童生徒の学習活動

- サービスの提供者が定める最新の利用規約 遵守している
年齢制限や保護者の同意の必 生成物のライセンスの所在など
- 成物をそのまま の成果物として使用すること
にならないこと 使用方法によっては不適切 は不正な 為になることを
に指導している
- 学習課題に生 成物の回答を引用している場合 引用を記載す
る
- 保護者の経済的負担に 分を配慮して 選択しているか
- 児童生徒が学校外で生成 物を活用する可能性も踏ま
え、不適切な利活用が行われな 保護者に対し 理解を得てい
るか

生成AIパイロット校における先行取組事例



教職員による校務での利活 学習場面に
おいて利活用が考えられる例 に即した生成
AIの先行取組事例を掲載している



学校現場で活用可能な研修教材等



文部科学省等が実施してきた
公開含む や利用可能なコンテンツ等の
を掲載している



Ⅳ 学校における生成 AI の利活用について（抄）

＜令和 7 年 3 月発行 岐阜県教育委員会 義務教育課＞

岐阜県における生成 AI の活用については以下に示す「学校における生成 AI の利活用について」（令和 7 年 3 月発行 岐阜県教育委員会 義務教育課）により方向性が示されています。これを踏まえて生成 AI を活用をしてください。

- 令和 6 年 1 2 月 2 6 日に文部科学省から「**初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン(Ver. 2.0)**」が公表されました。本リーフレットでは、学校における生成 AI の利活用についての基本的な考え方、生成 AI の利活用が考えられる例、教職員及び児童生徒が生成 AI を利活用する際のチェック項目について、ガイドライン(Ver. 2.0)及び参考資料を基に解説する。
- このガイドラインでは、生成 AI の概要、基本的な考え方が示された上で、学校現場において押さえておくべきポイントとして、利活用する場面や主体に応じた留意点について、現時点の知見を基に可能な限り具体的に示されている。（なお、今後の技術の進展や学校現場での取組等の状況を踏まえ、必要に応じて改訂が行われることが想定されている）

① 学校現場における人間中心の利活用

＜人間中心の原則＞

- 生成 AI は人間の能力を補助、拡張し、可能性を広げてくれる有用な道具になり得る。
- 生成 AI の出力はあくまでも「参考の一つである」ことを認識するとともに、最後は人間が判断し、責任を持つことが重要である。

＜児童生徒の学びと生成 AI＞

- 学習指導要領に示す資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用する。
- 生成 AI を利活用することが目的であってはならない。

＜教師の役割と生成 AI＞

- 指導計画や学習環境の設定、丁寧な見取りと支援といった、学びの専門職としての教師の役割は、より重要なものになる。
- 生成 AI の仕組みや特徴を理解するなど、教師には一定の AI リテラシーを身に付けることが求められる。

② 生成 AI の存在を踏まえた情報活用能力の育成強化

＜学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力＞

- 学習指導要領では、「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力として位置付け、情報を主体的に捉え、活用すること、情報技術を学習や日常生活に活用できるようにすることの重要性を強調している。
- 各学校においては、教科等横断的な視点からの教育課程の編成を通じて、各教科等の学習の過程における指導の中で情報活用能力を育成することが期待される。

＜情報活用能力の育成・強化＞

- 学習指導要領では、「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力として位置付け、情報を主体的に捉え、活用すること、情報技術を学習や日常生活に活用できるようにすることの重要性を強調している。
- 各学校においては、教科等横断的な視点からの教育課程の編成を通じて、各教科等の学習の過程における指導の中で情報活用能力を育成することが期待される。

③ 学校現場において押さえておくべきポイント

①教職員が校務で利活用する場合

- ・市町村教育委員会の方針に基づいて利活用。
- ・最新の生成AIサービスの**利用規約**の確認及び遵守。
- ・**校長の許可**を得た端末での使用。
- ・私用アカウントや私用端末を用いない。

安全性を考慮した
適正利用



- ・市町村教育委員会が示す**教育情報セキュリティポリシー**や**実施手順**の確認及び遵守。
- ・**校長の指示**等の遵守。
- ・**指示文(プロンプト)**に重要性の高い情報である**成績情報**等を入力しない。

情報セキュリティ
の確保



- ・個人情報保護法等の関係法令等の**遵守**。
- ・生成AIサービスが個人情報を**機械学習**に利用するか否か確認。
- ・既存の著作物と同一又は類似のものを、**授業外で使用しない**。
- ・**著作権法第35条**の確認。

個人情報やプライバシー、
著作権の保護



- ・**誤った出力(ハルシネーション)や偏見や差別(バイアス)を含む出力**等、生成AIの特徴を理解。
- ・出力された内容を取り入れるかどうか、**教職員が判断**。

公平性の確保



- ・市町村教育委員会と情報を共有。
- ・管理職は、**適切な利用**がなされているかを確認。
- ・利活用を通じて得られた成果を**教職員全体に共有**。

透明性の確保、
関係者への説明責任



②児童生徒が学習活動で利活用する場合

- ・市町村教育委員会の方針に基づいて児童生徒が利活用。
- ・**年齢制限**など利用する生成AIサービスの**利用規約**の確認。
- ・利活用に当たってのリスクが許容できることを**校長及び担当教師**が確認。
- ・約款・条件に則り、必要に応じて事前に**保護者の理解**を十分に得る。

安全性を考慮した
適正利用



- ・市町村教育委員会が示す**教育情報セキュリティポリシー**や**実施手順**の確認及び遵守。
- ・**校長の指示**等の遵守。
- ・可能であれば、入力した情報の**機械学習を許容しない設定(オプトアウト)**を講じる。

情報セキュリティ
の確保



- ・プロンプトに**氏名や写真等の個人情報**を入力させない。
- ・既存の著作物と同一又は類似のものを、**授業目的の範囲を超えて利用しない**。
- ・**著作権法第35条**の確認。

個人情報やプライバシー、
著作権の保護



- ・バイアスの存在を理解させた上で、生成AIが**バイアスを含む出力**を行う可能性があることを認識させる。
- ・生成AIの出力を常に慎重に判断し、**正確性・事実関係の確認(ファクトチェック)**を行うよう指導。

公平性の確保



- ・教師が生成AIの特徴を理解した上で、児童生徒が**生成AIの特徴に留意して利活用**できているかを確認。
- ・**保護者に対して**、生成AIの利活用目的やその態様等の**情報を提供**。

透明性の確保、
関係者への説明責任



校務で教職員が利活用する例

💡 児童生徒の指導にかかわる業務への支援

授業準備

- ・ 授業で取り扱う教材や確認テスト問題のたたき台を作成する。
- ・ 児童生徒による授業の感想の集約を行う。
- ・ 授業での発問に対する回答のシミュレーション相手として活用する。
- ・ 授業で使用したワークシートや振り返りの内容を基にテスト問題のたたき台を作成する。
- ・ 校外学習の実施行程のたたき台を作成する。



部活動

- ・ 過去の部活動の練習メニュー一覧を読み込ませ、毎日の練習メニュー案を作成する。



生活指導

- ・ 児童生徒等の生活実態の調査のためのアンケート案を作成する。



💡 学校の運営にかかわる業務への支援

教務管理

- ・ 時間割・授業時数案を作成する。



学校からの情報発信

- ・ 各種お便り(学年・学級だより、給食だより、保健だより等)・通知文・案内文のたたき台を作成する。
- ・ 学校行事に関するHP掲載文や報告記事のたたき台を作成する。



校内研修

- ・ 校内研修の資料のたたき台を作成する。
- ・ 研修や講演会の録画を読み込ませ、要約・議事録案を作成する。



💡 外部対応への支援

- ・ 保護者会・授業参観・保護者面談の日程調整に活用する。
- ・ 外部向け講演会の挨拶文のたたき台を作成する。

生成 AI の出力はあくまでも参考の一つです。最後は自分で判断し、生成 AI の出力を踏まえた成果物に自ら責任を持ちましょう！



校務 で生成 AI を利活用する際のチェック項目



教職員が校務で利活用する際には、次の項目について確認しましょう！

教育委員会の方針（情報セキュリティに関するルール・指示等も含む）に基づき利用しているか。

- 市町村教育委員会の方針に基づいて生成AIを利活用していますか。
- 市町村教育委員会が示す「教育情報セキュリティポリシー」や「生成AIに関するガイドライン」等を確認しましたか。

業務端末又は教育情報セキュリティ管理者の許可を得た端末を利用しているか。

- 指導者端末や校務用端末で私用アカウントを用いて生成AIを利用することや、学校内に校長の許可なく私用端末を持ち込んで業務利用してはいけないことを理解しましたか。
- 業務端末又は教育情報セキュリティ管理者（校長）の許可を得た端末で、生成AIを利用していますか。

生成 AI サービスの提供者が定める最新の利用規約を確認・遵守しているか。

- 学校で使用する生成AIサービス提供者が定める最新の利用規約を確認しましたか。
- 生成AIによる出力結果の利用については、サービス提供者の利用規約等により条件が付されている場合があることを理解しましたか。

ハルシネーションやバイアス等の生成AIの特徴を理解した上で、出力結果の適切性を判断できる範囲内で利用し、出力された内容を採用するかどうかを自身で判断しているか。

- 生成AIは、モデルの性質上、誤った出力（ハルシネーション）を完全に防ぐことは難しいことを理解しましたか。
- 生成AIには、学習過程・出力過程の信頼性・透明性への懸念、大量のデータに潜む偏見や差別等のバイアスをそのまま再生成することなど、様々なリスクがあることを理解しましたか。
- 生成AIの出力はあくまでも「参考の一つである」「最適解とは限らない」ことを認識するとともに、リスクや懸念を踏まえつつ、最後は人間が判断し、出力された内容の使用に自ら責任を持っていますか。

プロンプトに重要性の高い成績情報等の情報を入力していないか。

※ 重要性の高い情報を扱う前提のセキュリティ対策が講じられている場合は除く（ただし、重要性の高い情報のうち個人情報に該当する情報については、以下「プロンプトに個人情報を入力していないか」についても留意する必要がある。）

- 個別契約等に基づき適切なセキュリティ対策が講じられた環境で生成AIを運用しているような場合を除き、プロンプトに重要性の高い情報である成績情報等を入力してはいけないことを理解しましたか。

プロンプトに個人情報を入力していないか。

※ 教職員がプロンプトに入力した個人情報を、生成AIサービスの提供者において応答結果の出力以外の目的で取り扱わないことを確認している場合は除く

- 個人情報保護法等の関係法令等を遵守し、個人情報の取扱いについて必要かつ適切な措置を取っていますか。
- 学校で使用する生成AIサービスの提供者が当該個人情報を機械学習に利用するか否か等を確認しましたか。
- 学校で使用する生成AIサービスの提供者が当該個人情報を機械学習に利用する場合、プロンプトに個人情報を入力してはいけないことを理解しましたか。

著作権の侵害につながるような使い方をしていないか。

- 教師が、既存の著作物と同一又は類似のものを、学校のHPに掲載したり、保護者向けの学級通信や職員会議・PTA活動で利用したりすることは、授業の過程における利用には当たらず、著作権法第35条が適用されません。このような利用は、他の権利制限規定の適用がない場合、著作権侵害となる可能性があることを理解しましたか。

学習場面で利活用が考えられる例・不適切と考えられる例

生成 AI の利活用が考えられる例



- 情報モラル教育の一環として、生成 AI が生成する誤りを含む出力を教材に、その性質や限界に気付く。
- 英会話の相手として活用したり、より自然な英語表現への改善や一人一人の興味関心に応じた単語リストや例文リストの作成に活用したりする。
- プログラミングの授業において、児童生徒のアイデアを実現するためのプログラムの制作に活用する。
- 生成 AI をめぐる社会的論議について児童生徒が主体的に考え、議論する過程で、その素材として活用する。
- 外国人児童生徒等の日本語学習や学習場面での補助のために活用する。
- 生成 AI を利活用した問題発見・課題解決能力を積極的に評価する観点からパフォーマンステストを行う。
- グループの考えをまとめる、アイデアを出す活動の途中段階で、一定の議論やまとめをした上で、足りない視点を見つけ議論を深める目的で活用する。
- 生成 AI の利活用方法を学ぶ目的で、自ら作った文章を生成 AI に修正させたものを「たたき台」として、自分なりに何度も推敲し、より良い文章として修正した過程・結果をワープロソフトの校閲機能を使って提出する。
- 教科書等の内容を児童生徒それぞれの進度に合わせて理解するために、解説やイメージを出力し、より内容に対する深い理解を生み出す助けとする。

生成 AI の利活用が不適切と考えられる例



- ▲ 生成 AI 自体の性質やメリット・デメリットに関する学習を十分に行っていないなど、情報モラルを含む情報活用能力が十分育成されていない段階で、自由に使用する。
- ▲ テーマに基づき調べる場面などで、教科書等の質の担保された教材を用いる前に安易に利用する。
- ▲ 児童生徒の学習評価を、教師が判断せずに生成 AI からの出力をもって行う。
- ▲ 各種コンクールの作品やレポート・小論文等について、生成 AI による生成物をほぼそのまま自己の成果物として応募・提出する。(コンクールへの応募を推奨する場合は応募要項等を踏まえた十分な指導が必要。)
- ▲ 教師が正確な知識に基づきコメント・評価すべき場面で、教師の代わりに生成 AI の出力のみに頼る。
- ▲ 教師が専門性を発揮し、人間的な触れ合いの中で行うべき教育指導を実施せずに、生成 AI のみに相談させる。
- ▲ 詩や俳句の創作、音楽・美術等の表現・鑑賞など、感性や独創性を発揮させたい場面、初発の感想を求める場面等で安易に使わせる。
- ▲ 定期考査や小テスト等で使わせる。(学習の進捗や成果を把握・評価するという目的に合致しない。CBT で行う場合も、フィルタリング等により、生成 AI が使用し得る状態とならないよう十分注意すべき。)

これらはあくまでも一例です。生成 AI の利活用の適否については、**各 学機場の実態に即して適切に判断**しましょう！



学習場面で生成 AI を利活用する際のチェック項目



児童生徒が学習場面で利活用する際には、次の項目について確認しましょう！

教育活動の目的を達成する観点で効果的であることを確認しているか。

- 生成 AI の活用が、学習指導要領に示す資質・能力の育成につながるか、十分に吟味しましたか。
- 生成 AI の活用が、教育活動の目的を達成する観点から効果的であることを十分に吟味しましたか。

児童生徒の発達の段階や情報活用能力の育成状況に十分留意しているか。

- 小学校段階の児童が直接生成 AI を利活用することについては、発達の段階等を踏まえたより慎重な見極めが必要であることを理解していますか。

生成 AI の性質やメリット・デメリット、情報の真偽を確かめる、自己の判断や考えが重要であることを十分に認識できるような使い方等に関する学習を実施しているか。

- 児童生徒にハルシネーションやバイアス等の生成 AI の基本的な仕組みや特徴を理解させた上で、生成 AI に全てを委ねるのではなく自己の判断や考えが重要であることを十分に認識させましたか。
- ファクトチェックでは、複数の方法（情報の発信者、発信された時期、内容、他の情報と比較する等）を組み合わせ、情報の信ぴょう性を確認することが必要であることを指導しましたか。

プロンプトに氏名や写真等の個人情報を入力しないよう十分な指導を行っているか。

- 発達の段階に応じて、インターネット上に発信された情報は基本的には広く公開される可能性がある、どこかに記録が残る完全には消し去ることはできないといった、情報や情報技術の特性についての理解を促す学習活動等を行いましたか。
- 入力した情報を学習させないという設定（オプトアウト）が可能な生成 AI サービスについては、機械学習を許容しない設定を講じましたか。

著作権の侵害につながるような使い方をしないよう十分に指導しているか。

- 教師・児童生徒が授業において使用・作成したものを学校の HP にアップロードする、外部のコンテンツに作品として提出するなど、授業目的の範囲を超えて利用する場合は、著作権法第35条が適用されず、他の権利制限規定の適用がない場合は著作権侵害となる可能性があることを児童生徒に十分に指導しましたか。

生成 AI サービスの提供者が定める最新の利用規約を確認・遵守しているか。

（年齢制限や保護者の同意の必要性、生成物のライセンスの所在など）

- 市町村教育委員会の方針に基づいて、児童生徒に利活用させていますか。
- 1人1台端末を用いて児童生徒が生成 AI を利活用する場合、年齢制限をはじめとする利用するサービスの約款などの提供条件から、利活用にあたってのリスクが許容できることを校長及び担当教師が確認しましたか。
- その約款・条件を遵守させること、約款・条件に則り必要に応じて事前に保護者の理解を十分に得た上で、教師の適切な指導監督の下で児童生徒に利活用させることが必要であることを理解しましたか。

生成 AI による生成物をそのまま自己の成果物として使用することは自分のためにならないこと、使用方法によっては不適切又は不正な行為になることを十分に指導しているか。

●生成 AI の利活用を想定していないコンクールの作品やレポート等について、生成 AI の出力をそのまま自己の成果物として応募・提出することは評価基準や応募規約によっては不適切又は不正な行為に当たること、活動を通じた学びが得られず、自分のためにならないことなどについて十分に指導しましたか。

学習課題に生成 AI の回答を引用している場合、出典・引用を記載することを理解させているか。

●学習課題の一部として生成 AI の出力を引用する場合には、生成 AI を用いたことを明記するなど、出典・引用として記載する等の対応が必要であることを指導しましたか。(例えば、利用した生成 AI サービスの名称、入力したプロンプト、生成 AI を用いた日付を明示するなど、文献やインターネットから引用する場合と同様の引用ルールを設定することが考えられます。)

保護者の経済的負担に十分に配慮して生成 AI ツールを選択しているか。

●外部サービスの利用に起因するリスクを踏まえ、保護者の経済的な負担等に十分に配慮しつつ、サービス提供者の事業変更リスク等を十分に勘案して、利用する生成 AI サービスを選択しましたか。(生成 AI サービスの提供条件はサービス提供者に委ねられており、将来にわたって無償や安価な価格で利用可能とは限りません。)

児童生徒が学校外で生成 AI を利活用する可能性も踏まえ、生成 AI の不適切な利活用が行われないよう、保護者に対し周知し、理解を得ているか。

●保護者に対しても、生成 AI の利活用目的やその態様等の情報を提供していますか。
●児童生徒が学校外で生成 AI を利活用する可能性も踏まえ、生成 AI を不適切に利活用されないように保護者に対して周知し、理解を得るようにしていますか。

学校現場において留意すべき代表的なリスクや懸念の例

AIに人格があるかのように誤認するリスク

児童生徒が、人間のように振る舞うAIに触れることで、AIに人格があるかのように誤認するリスク



資質・能力の育成に悪影響を与えるリスク

AIに依存したり、AIの答えを鵜呑みにしたりするなど、目的に即した必要な学習過程が省略されてしまい、資質・能力に繋がらないリスク

バイアスの存在とそれによる公平性の欠如

既存の情報に含まれる偏見を増幅し、不公平及び差別的な出力が継続・拡大する可能性
流暢な出力を見ると正しいと感じてしまう流暢性バイアス等

機密情報や個人情報に関するリスク

入力された機密情報や個人情報が、他の情報と統計的に結びついた上で、また、正確又は不正確な内容で、生成AIサービスから出力されるリスク

著作権に関するリスク

既存の著作物と類似した生成物が生成される可能性があり、そのような生成物の利用の態様によっては著作権侵害が生じるリスク

外部サービスの利用に起因するリスク

現在は無償のサービスであったとしても将来的に有料のサービスになる価格の変動リスク
日本の法令が適用されないリスクや係争時における管轄裁判権が日本国外になるリスク等

このようなリスクを認識した上で、学校現場において正しく向き合っていくことが重要です！



V 「各教科での生成 AI の活用の具体例について」（揖斐郡教育研修センター提案）

本章は、アンケートの中で要望が多かった「各教科での生成 AI の活用の具体例について知りたい」という要望についての郡センターとしての提案をまとめたものです。

なお各教科の生成 AI の活用例については、

- (1) 文科省「初等中等段階における生成 AI 利活用に関するガイドラインに示された先進事例
- (2) 生成 AI の Gemini 及び Copilot の回答をもとにした活用法
- (3) 郡教育研修センターからの生成 AI の活用法についての提案

を記載してあります。先進的な取組及び生成 AI 活用の視点を (1)・(2)・(3) の視点から揖斐郡教育研修センターとして提案してありますので、この視点をもとに揖斐郡内の各学校で生成 AI を活用した授業づくりや校務のスリム化が実践されること、揖斐郡内の先生方の生成 AI の効果的で適切な活用が推進されることを願っております。

< I > 文科省「初等中等段階における生成 AI 利活用に関するガイドラインに示された先進事例

① 【校務での利活用に関する先行取組事例】

- 英語の小テスト問題のたたき台を生成 AI を用いて作成した。中学生が身近に感じられる場面設定をした文章を瞬時に作成でき、とても便利になった。また、これまで教師が作っていた学校行事の保護者案内文やスイスの姉妹校に送るメッセージカードのたたき台を生成 AI を用いて作成したプリントの英文作成等にかかっていた時間が大幅に短縮された。
- 「生徒が自分の考えを広げたり深めたりしている姿」を各教科担当が単元をイメージしながら、事前に作成した対話型の模擬授業プロンプトに課題を記入し、生徒同士がどのような対話を行うか生成 AI に尋ねた。課題の出し方によって対話が弾んだり目標に迫ったりする一方、課題が明確ではない場合は対話が弾まず、一問一答のような対話になっていた。後者のような課題の場合、実際の授業でも生徒が課題解決に向かって思考力が高まるような対話はできないことが予想される。教師の課題づくりの支援となると感じた。
- 授業で使用したワークシートや振り返りの内容を基にテスト問題のたたき台を作成する
- 生徒が学習して疑問に感じたことや授業で理解できた内容などを考慮したテスト問題となるように、授業で使用したワークシートや生徒の振り返りの文言などをまとめて PDF 化し、生成 AI に読み込ませてテスト問題を作成した。また、知識・技能を問う問題、思考・判断・表現を問う問題など、評価の観点ごとに分けて提案させ、テスト問題作成のたたき台にした。
- 各種お便り(学年・学級だより、給食だより、保健だより等)・通知文・案内文のたたき台を作成する
- あいさつ文、保護者あて文書、教育講演会の謝辞作成、学年だより等の添削に利用した。生成 AI が作成した内容はあくまでも例とし、最終的には作成者による内容確認、修正、補足、追記等の必要性を確認した。各種通信(学年だより、学級だより)は作成者が誤字・脱字のチェックを生成 AI で行うことにより、教務主任、教頭、校長のチェックの時間短縮に繋がった。
- 学校行事に関する HP 掲載文や報告記事のたたき台を作成す

② 【学習での利活用に関する先行取組事例】

< 小学校段階 > AI の正しい知識を身に付ける(6年次・国語科)

- AI についての基本知識を確認した後に、生成 AI を利用して教員が作成した記事と実際の記事を比較し、今後どのように AI を活用したいか、考えをまとめた。児童の反応としては、「インターネット上の情報をすぐに信じるのではなく、様々な資料と照らし合わせたり、自分の経験を基に考えることが大切だと感じました。」といったものが見られた。

【中学校段階】憧れの人物を英語で紹介する(3年次・英語科)

- 憧れの人物を英語で紹介する授業において、自分で作成した英作文が意味の通る文であるかどうか ChatGPT に直接入力したり、音声入力をして確かめさせ、訂正が必要な文はどう直せばいいのか提案してもらった。音声入力をするにより、自分の発音が正しいかどうかをある程度確認できる上、より自然な英語表現を提案してもらうこともできた。

【中学校段階】話し合いで問題を検討する(2年次・国語科)

- グループごとに設定した問題について話し合う活動において、新たな視点や自分たちの意見に対するアドバイスを生成 AI からもらい、検討を深めた。生徒の様子としては、「生成 AI からのアドバイスも、グループで話し合った内容に加えた上で再検討して、最終的な結論を出していた。」といったものが見られた。

<2>生成 AI の Gemini 及び Copilot の回答をもとにした活用法

以下に示すのは各教科での活用法をプロンプトに入力し、Gemini 及び Copilot に回答させたものです。活用についてはあくまで参考として、単元や授業のねらい、生徒の実態、適切な指導方法を鑑みて活用してください。

※教師は、授業や学級運営において、生徒の主体的な学びを促進するために、グループ活動を円滑に進め、対話や協働を促す役割を担い、一方的に知識を教えるだけでなく、生徒の意見を引き出し、深め、まとめ、新たな気づきや学びにつなげる役割を担っていることを踏まえ生成 AI を活用してください

<生成 AI が示した授業での活用についての留意点>

AI はあくまでツールであり、万能ではありません。AI の回答を「答え」としてうのみにさせず、その思考過程を吟味し、自ら考える力を養うことが最も重要。また AI が誤った情報(ハルシネーション)を生成することもあるため、教師がファシリテーターとして、その内容の正しさを生徒と一緒に検証する姿勢が大切である。

(i) 【教科共通】

- アイデア出し・ブレインストーミング
- 「SDGs の目標達成のために、学校でできること」をテーマに、AI に様々なアイデアを出してもらい、それをもとにグループで議論する。
- 効果: 思考の幅を広げ、議論を活発化させる。
- 表現活動の支援
自分の考えをまとめた文章を AI に読み込ませ、「もっと分かりやすく、説得力のある文章にするにはどうしたらいいか」をアドバイスしてもらい、効果: 表現力や構成力を高める。

(ii) 【国語】

- 物語の創作
 - ・「主人公がタイムマシンで未来に行く」という設定だけを与え、AI に続きを書いてもらう。その続きを読んで、自分がどう思うか、どう展開させたいかを考えることで、想像力を刺激し、物語の構成を学ぶ。
 - ・「主人公がタイムスリップして江戸時代に行く物語のあらすじをいくつか考えて」のように AI に指示することで、物語の骨組みとなるアイデアを複数提案してもらえます。生徒はそこから好きなものを選んだり、アイデアを組み合わせたりして、自分の創作を始められます。
- 古典文学の解説
 - ・古文を現代語に訳してもらい、さらにその背景や登場人物の気持ちをわかりやすく解説してもらうことで、古典への親しみを持たせ、内容理解を深める。
- 創作活動のサポート
 - ・生成 AI は、物語や詩、俳句などの創作活動において強力なツールになるので、『悲しみ』を表す言葉をできるだけたくさん教えて」と AI に尋ねることで、多様な比喩や言葉の表現を知ることができ、生徒は自分の語彙力を広げながら、より豊かな表現を学ぶことができる。
- 読解力と批判的思考力の育成
 - ・AI を読み解くトレーニングとして活用する。AI に特定のテーマで文章を書かせ、その文章の不自然な点や改善できる点を生徒に指摘させる。例えば、「環境問題について中学生向けに説明する文章を書いて」と指示し、出てきた文章のどこがわかりにくいのか、もっと説得力を持たせるにはどうすればよいかを議論する。
- 多角的な視点の獲得:
 - ・ある文学作品について、「もし主人公が異なる選択をしていたら、物語はどう展開したか?」とい

った質問を AI に投げかけ、複数の可能性を提示させる。生徒は AI の回答を参考に、登場人物の心情や物語の構造を深く考察する練習ができる。

- 文法・語彙の学習支援
 - ・生徒が個別に学習を進める際の補助として AI を活用する。生徒の理解度に合わせて、AI に文法問題や語彙の問題を作成させることができます。たとえば、「助動詞『る』の使い方を練習するための問題と解説を作って」と指示すれば、生徒は自分のペースで学習を進めることができる。
- 例文の生成
 - ・「『～にかかわらず』を使って、日常会話で使える例文を3つ作って」のように、特定の文法事項や慣用句を使った例文を生成させることができ、生徒は実際にどのように使われるかを具体的にイメージしやすくなる。

(iii) 【社会科】

- 歴史人物との対話シミュレーション
 - ・AI に坂本龍馬や織田信長などの人物になりきらせて会話させ、生徒がインタビュー形式で質問 → AI がその人物の視点で回答することで、歴史的背景や人物の考え方を深く理解する。
- 歴史の出来事を多角的に分析
 - ・「明治維新」について、武士・農民・外国人など異なる立場からの視点を AI に生成させ、生徒はそれを比較しながら、歴史の多面性を学ぶ。
- 地理の探究活動支援
 - ・地域の特色（気候・産業・文化）を調べる際、AI に要約や比較資料を作らせる。「岐阜県と北海道の農業の違いを教えて」のようにプロンプトに入力し、表や文章で提示させる。
- 公民のディベート・討論支援
 - ・「ベーシックインカムは導入すべきか？」のようなテーマで、AI に賛成・反対の立場から論点整理や根拠提示をさせ、生徒はそれをもとに自分の意見を構築する。
- ニュースの背景解説
 - ・時事問題（選挙、国際情勢、災害など）を取り上げ、AI に背景や関連情報を要約させ、生徒はそれをもとに意見文や新聞づくりに挑戦。
- 教師の授業準備に活用
 - ・授業導入のアイデア出し：「この単元を興味深く始めるには？」
 - ・ワークシートや問いの作成：「中学生向けに憲法の問いを考えて」
 - ・生徒の質問への即時対応：「先生、なぜ選挙権は18歳からなんですか？」

(iv) 算数・数学

- 概念理解の深化と多角的な視点の獲得

生成 AI に単に答えを出すだけでなく、その答えに至るまでの思考プロセスを多様な形で示させる。

 - ・異なるアプローチの探求: ある数学の問題に対し、「この問題を解くための別の方法をいくつか教えて」と AI に尋ねることで、生徒は一つの解法にとらわれず、多角的な視点から問題に取り組む力を養うことができる。→方程式で解く方法、図を使って解く方法、表を使って解く方法などの比較検討をさせる。
 - ・「なぜ？」の問いかけ: 児童生徒が特定の概念や定理を理解できないとき、「どうしてこの公式が成り立つのか、小学生や中学生にもわかるように説明して」と AI に尋ねることで、自分の疑問に合わせた丁寧な解説を得ることができる。AI の解説が難しければ、「もっと簡単に説明して」と指示することで、理解しやすい言葉で再説明してもらう。
- 問題解決能力と批判的思考力の育成

AI の回答を鵜呑みにせず、その正しさを検証させることで、児童生徒の思考力と批判的思考力を鍛える

 - ・AI 生成問題の添削・検証: AI に特定のテーマで文章問題を作成させる。例えば、「時速と距離に関する文章問題を作って」と指示し、AI が作った問題文に不自然な点がないか、条件が不足していないかなどを生徒に検討させる。→児童生徒は問題文を深く読み解き、論理的に思考する力を養うことができる。
- 「わざと間違えた」問題の作成
 - ・教師が意図的に誤った解法や答えを提示した問題を AI に作らせ、生徒にどこが間違っているかを

指摘させる。例えば、「この問題の解き方で、どこか間違っているところを指摘して、正しく修正して」と指示し、児童生徒が論理的な矛盾を見抜く力を鍛えることができるようにする。

- 個別最適な学習支援と学習意欲の向上
 - ・生成 AI は、生徒一人ひとりの学習状況に合わせたサポートを提供できるので、児童生徒の得意・不得意に合わせて、AI に個別問題を作成させることができる。「分数のたし算が苦手なので、難易度を段階的に上げた練習問題を5問作って」と指示すれば、児童生徒のレベルに合わせた問題集を瞬時に作成できる。
- 学習ゲームの作成
 - ・AI に数学の知識を使ったゲームやクイズを作らせることで、学習をより楽しく、主体的なものにできる。「円周率を覚えるためのゲームを考えて」といった指示で、遊び感覚で学習できるコンテンツを生成できる。
- 教師の授業準備の効率化
 - 教師が授業準備にかかる時間を短縮し、より生徒の指導に集中できるようにします。
 - ・教材作成の補助: 授業で使う問題、解説、板書のアイデアなどを AI に提案させる。「二次関数のグラフの授業で、生徒が興味を持つような導入方法をいくつか考えて」と指示すれば、多様なアイデアを得られる。
 - ・評価基準の検討: 記述式の問題に対する評価基準を AI に作成させ、教師がそれを参考にすることで、より公平で一貫性のある評価が可能になる。

(v) 理科

- 実験レポートの構成支援 → 生徒が書いたレポートに対して、構成や表現の改善案を提示させる
- 化学反応式の解説 → 「水の電気分解ってどういう反応？」 → AI に図解付きで説明させる
- 物理法則の応用例提示 → 「ニュートンの運動法則が使われている身近な場面は？」と AI に尋ね、自転車やジェットコースターなどの具体例を示させる。
- 生態系のシミュレーション → 「森の中でオオカミが減ったらどうなる？」のように尋ね、AI に食物連鎖の変化を説明させる。
- 細胞の働きの比喻表現 → 難しい内容を「工場」や「都市」に例えて生成 AI にわかりやすく説明させる
- 進化の過程を物語風に 「魚が陸に上がるまでの進化をストーリーにして」生成 AI に示させ、児童生徒の興味を引く。
- 地震や火山のメカニズムを解説 するために 図やアニメーション風の説明を生成 AI に作成させる。
- 気候変動の影響予測 → 「日本の気温が2℃上がったらどうなる？」と尋ね、生成 AI に科学的根拠をもとに予測させる。
- 環境問題のディベート支援 → 「プラスチック削減は本当に効果的か？」と尋ね、賛否両論の資料を生成し、ディベートの根拠とさせる。

(vi) 英語

<授業準備での活用>

- 導入クイズの作成
 - ・教科書のトピックに関連する英語クイズを生成 AI に作成させることで、授業の導入がスムーズになる。例「皇帝ペンギンの生態」についての3択クイズを英語で作成し、生徒の興味を引き出す。
- 教材の背景知識を収集
 - ・教科書に登場するテーマ（例：動物、文化、歴史）について、AI が簡潔に英語で説明させる（教員の教材研究時間を大幅に短縮につながる）
- 文法・熟語の例文生成
 - ・「関係代名詞」「be used to」などの文法項目に対して、実用的な例文を瞬時に生成させたり、スライドやワークシート作成に活用する。

<生徒のアウトプット支援>

- ライティングの添削とリライト
 - ・生徒の英作文を AI に添削させ、文法・語彙・構成などを評価する。

- ・自己添削→AI添削→リライトというプロセスで、メタ認知力を育成する。
- スピーキング練習
 - ・AIに「面接官」や「代弁者」などの役割を与え、対話形式で練習することで、間違いへの抵抗感が減り、自信を持って話す力が向上。
- 英語ディベートの相手として活用
 - ・生成AIに賛成・反対の立場を設定し、生徒と英語でディベートさせることで、多角的な視点を学び、批判的思考力を育む。

<教材作成>

- スライド作成支援
 - ・キーワードを入力するだけで、英語プレゼン用スライドの構成を自動生成したり、教員がたたき台として活用し、授業準備を効率化する。

(vii) 音楽

- 創作活動のサポート
 - ・生成AIは、作曲や編曲といった創作活動のハードルを下げ、生徒が音楽を「つくる」楽しさを体験するのに役立つ。
 - ・作曲・編曲のアイデア出し→「明るい雰囲気、春をテーマにしたメロディーのアイデアをいくつか考えて」のようにAIに指示することで、作曲のヒントを得ることができる。特定の楽器の組み合わせや、特定の作曲家風のメロディーを提案させることも可能
 - ・歌詞作成:→特定のテーマや感情をAIに伝え、「卒業式で歌う歌の歌詞を考えて」といったプロンプトを入力することで、歌詞の土台を生成させることができる。→生徒はAIが作った歌詞を参考に、自分たちの思いを込めた言葉に修正したり、新たなアイデアを加えたりする作業を通じて、言葉の選び方を学ぶことができる。
 - ・伴奏作成: 生徒が作ったメロディーに合わせて、AIに簡単な伴奏を作成させることができる。→生徒は自分の作ったメロディーが実際に演奏されたらどうなるかを具体的にイメージでき、さらにアレンジを工夫する意欲を高められる。
- 鑑賞と分析の深化
 - ・楽曲の分析と解説→あるクラシック音楽について、「この曲が作られた時代の背景や、作曲家の心情について教えて」とAIに尋ねることで、音楽史や文化的な文脈と結びつけて作品を深く理解できる。また、「この曲の特徴的な和音進行を教えて」といった技術的な質問にも答えてもらうことで、より専門的な視点から音楽を分析する練習ができる。
 - ・異文化の音楽を学ぶ→各国の民族音楽や特定のジャンルについて、AIに特徴や歴史、使われる楽器などを解説してもらうことができ、これにより、児童生徒は多様な音楽文化に触れ、視野を広げることができる。
- 個別最適な学習支援

生成AIは、生徒一人ひとりの学習進度や興味に合わせた学習をサポートする。

 - ・楽器練習の補助→楽器の練習でつまづいている児童生徒が、「この部分がうまく弾けないんだけど、練習のコツを教えて」とAIに尋ねることで、個別のフィードバックや練習方法のヒントを得ることができる。
 - ・音楽用語の解説: 専門的な音楽用語について、AIに簡単な言葉で説明してもらったり、関連する楽曲を提示してもらったりすることで、生徒は自分のペースで学習を進めることができる。
- 授業準備の効率化

教師が授業準備にかかる時間を短縮し、より創造的な授業を設計するのに役立ちます。

 - ・教材作成→授業で使うワークシートやクイズ、楽曲の解説文などをAIに作成させる。
 - ・授業案のアイデア出し→「音楽の要素（リズム、メロディー、ハーモニー）を生徒に体験的に学ばせるための授業アイデアをいくつか考えて」と指示することで、新しい授業のヒントを得られる。

(viii) 美術

- 群馬県の公立小中学校での導入例・・・図画工作と美術の授業に対話型生成AIを導入。
 - ・子どもがタブレットに疑問を書き込むと、AIが「なぜそう思ったの?」「何が好きなの?」と問

いかけ、思考を深める支援を行う。→教員の専門性に差がある科目でも、AIが補助的役割を果たすことで指導の質を均一化できる。

- 缶バッジ制作での生成AI活用（東京都）
 - ・好きなものをテーマに缶バッジをデザインする授業で、生成AIが「スケッチお助けロボ」としてヒントを提供→児童は「レッサーパンダってどんな形？」などと質問し、AIのヒントをもとにスケッチを開始。
 - AIは具体的な描き方ではなく、創造的な視点を提示することで、児童の表現力を引き出す。
- 鑑賞授業での画像生成AI活用（東京都の小学校）
 - ・「美しいと思う風景」をテーマに、児童がキーワードを入力して画像を生成。→生成された画像をもとに鑑賞・対話活動を行い、他者の価値観を理解する機会にする。→具体的な指示を通じて、表現力と指示力の向上が見られた。

(ix) 保健体育

保健体育の授業で生成AIを活用することは、生徒が自らの健康や身体活動について深く理解し、主体的に考える力を育む上で非常に有効。身体を動かす「体育」と知識を学ぶ「保健」の両面で、多様な活用法が考えられる。

- 体育（実技）での活用法
 - ・生成AIは、生徒一人ひとりの運動スキル向上をサポートし、学習の振り返りを効率化するのに役立つ。
 - ・技術分析とフィードバック：
 - 生徒が運動している様子を撮影し、AIに分析させ、フォームの乱れや改善点を具体的に指摘させる。
 - （例）走り幅跳びの踏み切り動作や、バスケットボールのシュートフォームなど、客観的なデータに基づいたフィードバックを提供
 - ・AIがお手本となる動画を生成し、児童生徒が撮影した自分の動画と重ね合わせて比較することで、どこが違うのかを視覚的に理解することができる。→児童生徒は自らの課題を明確にし、効果的な練習につながります。
 - ・練習メニューの個別化：
 - 生徒の体力や技術レベル、目標に合わせて、AIに練習メニューを提案させることができる。
 - （例）「バスケットボールのドリブル練習で、初心者向けのメニューを3つ考えて」と指示すれば、難易度や目的別に様々な練習方法を提示してくれます。
 - ・グループ学習では、生徒たちが自らAIに相談して練習メニューを考案し、それを実行することで、より主体的な学びにつながる。
- 保健（座学）での活用法
 - ・課題解決型学習のサポート
 - 現代社会における様々な健康課題（例：睡眠不足、食生活の偏り、メンタルヘルス）について、AIに情報収集をさせ、その原因や影響、解決策を多角的に検討させる。
 - （例）「高校生の睡眠不足の原因と、それを改善するための具体的な行動計画をいくつか考えて」と指示し、生徒がその内容を議論することで、実践的な知識を身につけられる。
 - ・AIが生成した情報を基に、ディベートやプレゼンテーションの準備をすることができる。
 - （例）「SNSの利用がメンタルヘルスに与える影響について、肯定的な意見と否定的な意見をまとめて」といった使い方
 - ・正確な情報を見抜くトレーニング：
 - AIが作成した健康に関する文章の中に、意図的に誤った情報を混ぜておき、生徒にどこが間違っているかを指摘させる。→これにより、生徒は情報リテラシーを高め、健康情報を正しく判断する力を養う。
- 教師の授業準備の効率化
 - ・教材作成：
 - 小テストやワークシート、授業の導入で使うクイズなどをAIに作成させる。→「食中毒の予防

法に関するクイズを5問作成し、解説も加えて」といった指示で、短時間で質の高い教材を準備できる。

・ 評価の補助:

体育の実技評価において、AIに生徒の動きのデータ分析をさせることで、より客観的な評価が可能。保健のレポート課題の評価基準をAIに作成させ、それを参考にすることも可能。

(x) 技術家庭科

● 技術分野（ものづくり、情報、エネルギーなど）

・ ものづくり（設計・製図）:

アイデアの具現化

（例）「ペットボトルのキャップを使って、身の回りにある問題を解決するアイデアをいくつか考えて」とAIに問いかけ、児童生徒はAIが提示したアイデアを参考に、自分たちの生活に合わせた改良を加え、新たな製品の設計につなげることができる。

・ 製図の補助→AIに簡単な図面を生成させたり、特定の部品の寸法を提案させたりすることで、製図のプロセスを効率化し、より創造的な設計に集中できる。

・ プログラミング:

コードの生成と解説: 簡単なプログラムを作成する際に、AIに「〇〇の機能を持つコードを書いて」と指示し、AIが生成したコードの仕組みやエラーの修正方法を生徒に解説させる。これにより、生徒はプログラミング言語の文法や論理を実践的に学ぶことができる。

・ バグの特定と修正→児童生徒が作成したプログラムにエラーが発生した場合、AIにコードを読み込ませて、「このプログラムのバグはどこか、どうすれば修正できるか」を尋ねる。AIの助言を参考に、生徒自身が問題解決に取り組むことで、デバッグ能力を養うことができる

● 家庭分野（食生活、衣生活、住生活など）

・ 調理実習（食生活）

献立作成と栄養計算→「主食、主菜、副菜を含む、旬の野菜を使ったヘルシーな献立を考えて」とAIに指示する。児童生徒はAIが提示した献立を参考に、栄養バランスや調理の手間を考慮して、自分たちなりの献立を完成させる。さらに、AIに各メニューのカロリーや栄養素を計算させることで、栄養学的な知識を深めることができる。

・ 調理工程のシミュレーション:→AIに「ハンバーグの調理工程で、失敗しやすいポイントとその対策を教えて」と尋ね、実習前に注意すべき点を把握し、失敗のリスクを減らす。

・ 裁縫・被服実習（衣生活）:

デザインのアイデア出し→「リサイクルしたTシャツを使って、オリジナルのバッグをデザインするアイデアを考えて」とAIに指示し、多様なデザインのヒントを得る。児童生徒はAIのアイデアを基に、より独創的なデザインを考案することができる。

・ 裁縫のコツや手順→特定の縫い方や、難しい工程について、AIに「まつり縫いのきれいなやり方を教えて」と尋ねることで、テキストや動画を見るだけでは分からなかった疑問を解決できる。

・ 住生活（住居や家計）:

・ 家計管理のシミュレーション→架空の家計を想定し、「食費を〇万円に抑えるための1週間の買い出しリストと、節約するための献立を考えて」とAIに指示する。児童生徒はAIの提案を参考に、家計簿のつけ方や節約の工夫を実践的に学ぶことができる。

● 教師の授業準備の効率化

・ ワークシートや課題の作成: 授業で使うワークシートや小テスト、レポート課題の設問などをAIに作成させることができる。

・ 評価基準の検討: 製作物やレポートの評価基準をAIに作成させ、それを参考にすることで、より公平で客観的な評価が可能になる。

< 3 > 郡教育研修センターからの生成 AI の活用法についての提案

【令和7年度揖斐郡教育研修センターの重点より】

生成 AI の教育への有効な活用

生成 AI は、高度なデータ処理や判断をコンピュータで自動的に行う技術で、入力されたデータの背景にあるパターンやルールを学習し、最適な答えを見つけたり予測をしたりできます。最近 Google Gemini や Microsoft Copilot などがブラウザに搭載されるようになり使いやすくなりました。郡センターで有効な活用法の提案を行うとともに郡内各校で実践された生成 AI を有効に活用した実践例を郡内に広げていく。特に実践論文の様々な教科での ICT や生成 AI の活用例や授業ライブラリーの中の授業で生成 AI を活用した実践→センター通信や郡センターHP で紹介したり、郡センターより生成 AI の授業での活用方法を提案していく。

< 国語科の実践例で >

① 読書感想文での活用例

読書感想文の書き方を指導する場面で活用

サンプルとなる読書感想文を授業の中で3通り示し、どの読書感想文がよいと思うかを児童・生徒に考えさせ、読書感想文を書くための視点や表現の仕方について考えさせる。

読書感想文を書く際の生成 AI の活用については全国学校図書館理事長が次のように述べているので指導の際にはそれを踏まえる。

< 読書感想文を書く際の生成 AI の活用について >

- 校内での募集の際（夏休みの課題の説明時）に、生成 AI を使って書き上げることはしないということを周知しておく。コンクールの募集要項では、「個人のオリジナルで未発表の作品に限る」とあり、不適切な引用等があった場合には審査対象外になるとある。AI に感想文そのものを書かせた場合はこれにあたる。（普段からの指導が重要になる）
- 例えば、感想文や作文を書くときに、『こういうことについて書きたいんだけどヒントが欲しい』と先生に聞けば答えてくれる。だから、生成 AI に対して同様の質問をしてヒントをもらう、あるいは、実際に書いたものが文法的に正しいかを確認してもらうなどの活用はあるだろう

次の3つの読書感想文は「走れメロス」について800字で生成 AI の Copilot、Gemini、先生が作成した感想文例です。どの読書感想文がよいと思いますか。また、どれが生成 AI が書いたのもので、どれが先生が書いたものかわかりますか？

(A)

太宰治の不朽の名作『走れメロス』を読み、胸を打たれる感動と、人間の心の奥底にある真理について考えさせられました。物語の主人公メロスは、暴君ディオニスの圧政に憤り、処刑を宣告されます。しかし、妹の結婚式に出るため、友人のセリヌンティウスを人質として差し出し、三日間の猶予をもらいます。この常識外れの約束が、物語のすべての原動力となっています。

メロスが約束を守るために走り続ける姿は、まさに人間の信念と友情の象徴です。途中、疲労、川の氾濫、山賊との遭遇など、数々の困難に直面しながらも、彼の心を支えたのは、親友セリヌンティウスへの揺るぎない信頼でした。自分を信じて待っていてくれる人がいる、その思いがメロスを何度も奮い立たせ、諦めそうになる心を前へと押し進めます。

そして、ボロボロになりながらも王宮にたどり着いたメロスと、彼を信じて待ち続けたセリヌンティウスの再会シーンは、この物語の最大のクライマックスです。彼らの友情は、最終的に人を信じることを知らないディオニスの心さえも動かします。

この物語は、私たちに**「信じることの尊さ」、そして「約束を守り抜くことの重み」**を教えてくれます。それは時代を超えて変わらない普遍的なテーマであり、現代を生きる私たちにとっても、深く心に響くメッセージです。

(B)

太宰治の『走れメロス』を読んで、私は人間の信頼と友情の力に深く心を打たれました。物語の主人公メロスは、親友セリヌンティウスとの約束を守るため、命をかけて走り続ける。その姿は、現代社会において希薄になりがちな「人を信じる心」や「絆の強さ」を鮮やかに描き出しているように感じました。

メロスは王の暴政に怒り、正義のために立ち上がりますが、妹の結婚式のために一度帰郷することを望み、親友を人質に差し出します。この時点で、彼の行動には大きな責任が伴っている。約束を破れば、親友の命が失われます。しかし、途中で数々の困難に遭いながらも、メロスは決して諦めず、必死に走り続けます。その姿は、信頼とは言葉だけでなく、行動で示すものだということを教えてくれます。

また、セリヌンティウスの態度にも感銘を受けました。彼はメロスの帰りを信じ、死を覚悟して待ち続ける。裏切られるかもしれないという不安があっても、友を信じる心を貫く姿勢は、真の友情とは何かを考えさせられます。二人が再会し、互いを殴り合いながらも涙を流す場面は、感情の激しさと絆の深さを象徴しており、読者の心に強く残ります。

この物語を通じて、私は「信じること」の大切さを改めて実感した。人は時に疑い、裏切り、失望することもあります。それでも信じる心を持ち続けることで、真の絆が生まれるのだと思います。私もメロスのように、困難に立ち向かいながら、人との信頼関係を大切に生きていきたいと思いました。

(C)

走れメロスは「メロスは激怒した」の激しい怒りの表出から始まります。メロスが誰に対して怒っているのか、何に対して怒っているのかわかりません。けれど、そのために、次のページをめくらずにはいられなくなりました。

わたしはアニメでも「走れメロス」を見たことがありますが、太宰の原作のような感動も驚きも抱くことはできませんでした。それはなぜでしょうか。原作が内容だけでなく、表現もそれ以上にすばらしいからだと思います。

「必ず、かの邪智暴虐のを除かなければならぬと決意した」という漢文調の歯切れのよい文体によるたたみかけ、メロスが走り出す場面の「初夏満天の星である」や「はるか向うに小さく、シラクスの市の塔楼が見える。塔楼は、夕陽を受けてきらきら光っている。」などの情景描写、「犬を蹴けとばし、小川を飛び越え、少しずつ沈んでゆく太陽の、十倍も早く走った。」という誇張法、そうした表現の一つ一つがメロスの「信実」に向かう決意の強さをリアルに描きだして、思わずメロスを応援したくなり、メロスと一緒に走っている気持ちになります。

また、「走れメロス」は単なる徒競走ではなく、障害物走です。氾濫した川、山賊の出現、結婚をなかなか承諾しない花婿、もう無駄だから走るのをやめてくださいと懇願するフィロストラトス。中には障害だとなかなかわからないものもありますが、それが謎解きのように楽しく、乗り越えて走るメロスの姿が「信実」の大切さを教えてくれます。

最後に少女からささげられる緋色のマント、それは信実の色であり、セリヌンティウス以外にもメロスがきつと帰ってくると信じている者がいたことを示す「信実」の勝利を示す象徴なのです。

<参考> A・・・Gemini が書いた読書感想文 B・・・Copilot が書いた読書感想文
C・・・先生（人間）が書いた読書感想文

② 俳句等の鑑賞での活用例

「降る雪が父子に言を齎しぬ（中学校の国語の教科書に掲載された俳句）」

17文字の俳句を授業で取り扱う時には、授業で教師が着目する言葉や表現や言語操作や関係は悪の仕方をガイダンスした上で、一人読み→交流を行い、読みを深めていくが、ガイダンスだけで一人読みの進まない生徒には生成AIが作成した鑑賞文をもとにしたヒントカードをわたし、自分の読みを作るきっかけとする。

<Gemini の回答>

- この句は、昭和を代表する俳人、石田波郷（いしだはきょう）の代表的な句の一つです。結核を患い、長い療養生活を送った彼の人生を象徴するような、静けさと深い感情が込められています。
- 文字通りには「降る雪が、父と子に言葉をもたらした」という意味です。しかし、この「言葉」は、具体的な会話というよりも、もっと奥深いものを指していると考えられます。
- 雪がもたらす「無言の言葉」：雪が静かに降り積もる情景は、日常の喧騒から隔絶された特別な空間を作り出します。その静けさの中で、父と子はお互いに向き合い、普段は口にしないような大切な思いや感情が、言葉を介さずに通じ合っている。
- 波郷は病と闘う中で、命や家族とのつながりを深く見つめました。雪は、清らかさや儚さ、そして厳しさをも象徴します。この句は、雪の降る景色を前にして、父が子に、あるいは子が父に、命の尊さや人生の重みを教え、また教えられている姿を描いているとも解釈できます。
- この句が詠まれた時代は、戦争や病といった厳しい現実がありました。

生成 AI による解釈と鑑賞は十七文字しかない俳句の場合、生徒にとって大きなヒントになります。この場合は時代背景や情景のヒントになります。特に生徒の読みに応じて下線部の内容をヒントカードとして渡すことで一人一人が自分の読みをもち、それをもとに授業で生徒たちが意見を出し合いながら鑑賞を深めていくことを目指します。

<生成 AI 活用以外にこの俳句の鑑賞の授業で教師が行うこと・・・生成 AI は授業づくりの手助けはしてくれるが授業を作り上げるのは教師である>

- 授業の初めにガイダンスを行い
何が見えるか、どんな音がするか、どんなにおいがするか、どんな味がするか、どんな感触があるかの五感からイメージを広げさせる。
- 読む時のてがかりとして「降る雪」、「が」「父子に」、「言」、「齋しぬ」の各語彙を言語操作させる。
親子←→父子 会話が始まる←→言を齋しぬ 等
- なかなか読みのきっかけのもてない生徒には生成 AI が作成した鑑賞文より下線に関わる言葉のヒントカードを与える。
- この短歌は麦踏の時の俳句であることを俳句の前に注記しておく。

(読み取りの一例・・・実際の授業の中で生徒が出した)

雪が降る前は父と子が言葉を交わすこともなくただ黙々と麦を踏んでいる。そこに雪が降り出す。「あっ、雪」その言葉をきっかけに父と子の間に会話が始まる。父子とあるので母が病死し、父は男手一つで息子を育ててきたのかもしれない。子はそんな無口で不器用な父に感謝をしている。そんな父を見て、子は高校生で東京の大学に行きたいと思っているが、父の苦勞を知っているだけになかなか言い出せない。けれど降り出した雪をきっかけに子は父に勇気をもって言う。「東京の大学に行きたいのだけれど」

これを受けて「ゆさぶり」の発問をかけた→子の願いに父はなんと答えたのだろうか



様々なよみを生徒たちはお互いの意見として出し合いながら、鑑賞を深めていった。

情景や思いを読み広げられない時、また揖斐郡のように1学級の児童生徒が少ない時に、生成 AI を活用することで読みを広げ、深めることができと思われる。

③ ディベートや作文でのサンプルの作成

「火災の時の避難の仕方」、「東京と揖斐郡どちらがすみやすいか」などの作文やディベートを行う時に、サンプルを生成 AI に作成させ、どの作文がいいか、どんな点がよいのかを考えさせ、作文を書く視点をもたせる。

作文を書く場合には

発想→構想→校正→叙述→推敲の過程を経るが、その場合にはサンプルやモデルを使って、書く視点を自分の力で獲得させることが大切である。

サンプル提示の際には

・着眼した視点の違うもの

・各作文の目的に照らした時によりサンプルと悪いサンプル

の提示を行い、どちらがいいのか、どこがいいのかを、どうすればよくなるのかを考えさせることで作文を書くための視点を児童生徒が自力で獲得していくようにする。

また、ディベートで相手の立場からどんな立案をしていくのかを生成 AI に書かせ、それをもとに反論に対する反論を児童・生徒に考えさせる。

教師が一人でサンプルを複数つくることは、一人の人間のもっている視点（生活体験や読書体験や学習によって形成される）に縛られ広がり限界があること、サンプルを考えるのに時間がかかってしまう。この部分を生成 AI に行わせることにより、教師の授業づくりのスリム化や質の高い授業づくりにつながる。

今回送付した「揖斐郡生成 AI 活用ブック」をもとに、各校で生成 AI の課題を踏まえた上での有効な実践が授業や校務等の場でなされることを願っております。また郡教育実践論文等に生成 AI を有効に活用した実践が反映され、郡教育研修総会の場等で郡内で共有されるとよいと思います。趣旨をご理解いただき、ご活用のごほうごをお願い致します。